

Presented by
Shepherd Central Livestock Clinic



これから生き抜くための 肥育経営のお話し

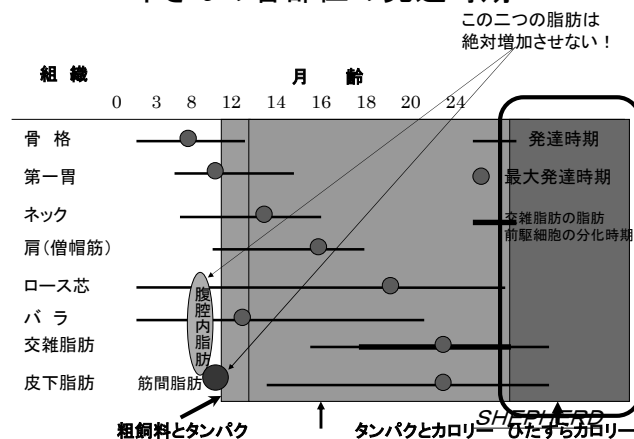
(有)シェパード
中央家畜診療所

SHEPHERD

第9回目の今回は 後期と仕上げについてのお話その2です

SHEPHERD

牛さんの各部位の発達時期



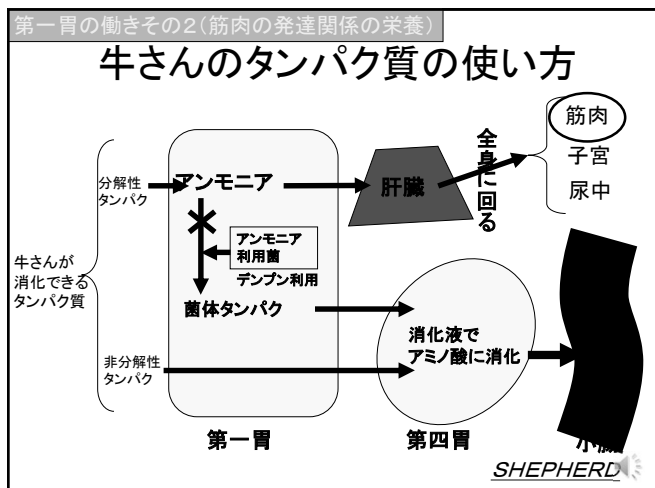
前回の予告

タンパク質の給与量が多すぎると
不要なタンパク質の老廃物である
アンモニアの影響で肉色が悪く
なったりします

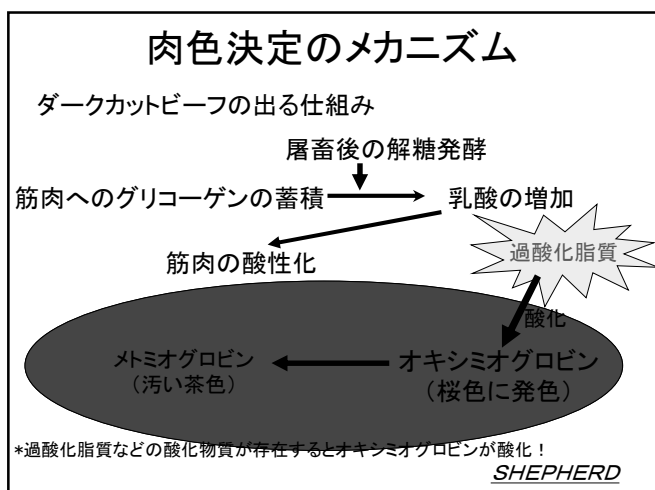
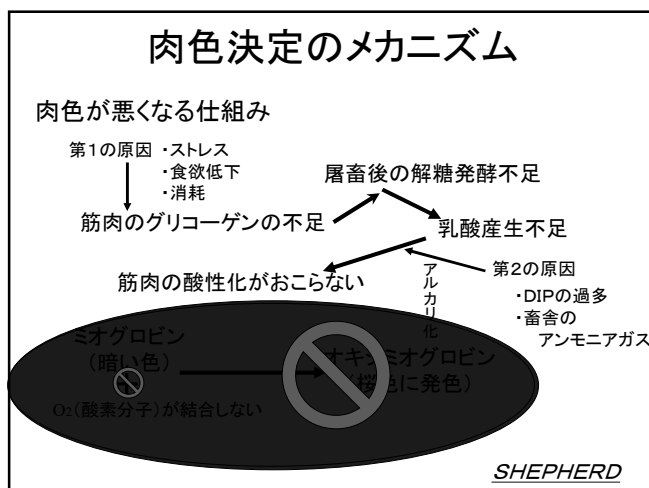
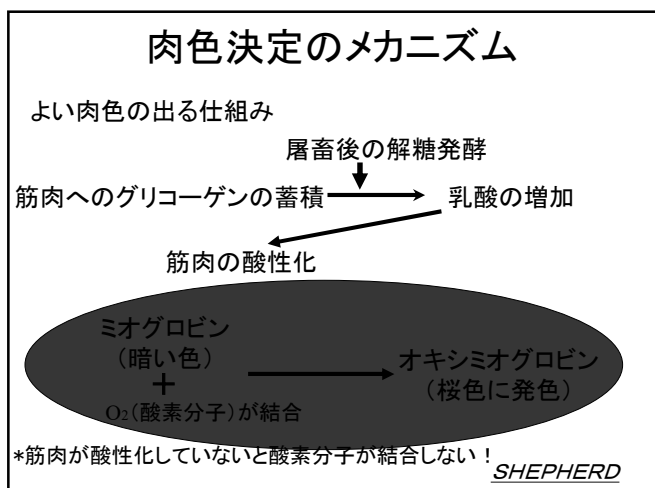
SHEPHERD

肥育後期は骨格や筋肉の成長が
一段落して脂肪蓄積(サシの第2段階)
や脂肪質を整え牛さんを老化(枯れ)
させる時期です

SHEPHERD



- ## 肉色が悪いケース
- 出荷前の食欲低下
 - ツメが伸びていた
 - 牛舎がアンモニア臭い
 - 除角牛を有角牛と積みあわせた
 - エサのタンパクが高い
 - ストレスがかかった
 - 長距離輸送
- SHEPHERD



冬場に痩せる牛さんはいませんか？

↓

こういう牛さんは春先に急速に太る傾向がありますが、そういう牛さんは締まりが悪く肉色も悪くなる事が多いです

SHEPHERD

冬場に痩せる牛さんは いませんか？

冬場に痩せる牛さんは、寒さのために体温を維持するためのカロリーが消費されてタンパク質を身につける(タンパク同化)ためのカロリーが不足するのです

ですから、冬場はタンパクではなくカロリーを補いましょう

具体的にはトウモロコシ中厚圧片を500gから1kg添加してあげます *SHEPHERD*

素人目に見て素晴らしくパンパンに仕上がったように見える牛はまだ老化が足りません



サシの後伸びがない

SHEPHERD

枯れた牛を作るために大切なことは「中期に十分食い込ませる」こと！

SHEPHERD

「枯れてこない牛」を
急いで枯らしたい



前期に配合飼料の打ち込みが早すぎた牛では難しいのですが、フスマを1kg/日 1ヶ月ほど与えると枯れてくる場合も多いです

SHEPHERD

脂肪質を整える

SHEPHERD

脂肪質が変化する要因

- 脂肪細胞は40日で半分が入れ替わる
- デンプン質から合成される脂肪は飽和脂肪酸といって融点が高く硬くて白く口溶けは悪い
- 油脂系の飼料は第一胃で一部「水素添加」によって飽和脂肪酸に変化するが、残りは不飽和脂肪酸という融点が低く口溶けのよい脂肪として蓄えられる

SHEPHERD

脂肪質が変化する要因

- デンプン質飼料の代表は大麦圧片や小麦粉など
- 油脂系の飼料の代表はホミニーフードや炒り大豆、エクストруд処理大豆
- 第一胃の水素添加能力は系統で異なる
- 経験則だが「糸系」は水素添加能力が高く飽和脂肪酸を作りやすい

SHEPHERD

脂肪質の調整

- 脂肪質が硬い農場では後期の油脂系の飼料の割合を増やす
- 脂肪質が緩すぎる農場では後期にデンプン系の飼料の割合を増やす
- 「糸系」の場合は油脂系飼料を少なく長く与えても水素添加能力が高く飽和脂肪酸に変えてしまうので、水素添加能力を超える量（飼料の1/4くらいから初めて変化を見ながら調整）を2ヶ月ほど給与する

SHEPHERD

脂肪質が変化するもう一つの要因

消化管内の細菌叢がよければ脂肪質は不飽和脂肪酸が多いタイプになる

SHEPHERD

脂肪質をよくするためにも良質の生菌剤は重要！

SHEPHERD

資産家が子供家族に金塊を相続させます



なんと金塊
17枚!!

- 1: 子だくさんの長男家族には1/2
- 2: 子供が少ない次男家族には1/3
- 3: 独り者の3男には1/9

どうやって分けますか？

SHEPHERD

9, 今週はここまで！

Youtubeでも貴重な情報を発信してます
https://youtu.be/R_N5HERgzQE

SHEPHERD